

9 センタールーフ標準施工法

9-3 設計施工基準

- 下葦材は下表のようにセンタールーフの種類および屋根勾配、流れ長さに応じて施工してください。

勾配	2. 5寸以上3. 5寸未満	3. 5寸以上27. 5寸以下
流れ長さ	10m以下	13m以下
捨て板(BYS2F00A)	要(全段)	不要
横暖ルーフαプレミアムS 横暖ルーフプレミアムS 【飛び火認定 DR-1859-1(1)】	<防水強化仕様> 片面粘着層付き 改質アスファルトルーフィング、 アスファルトルーフィング940、 改質アスファルトルーフィング	<一般施工仕様> アスファルトルーフィング940または 改質アスファルトルーフィング
横暖ルーフαS窯変 【飛び火認定 DR-1981(1)】		
横暖ルーフαS 横暖ルーフS(1820) 【飛び火認定 DR-1892(1)】		

- 建物の高さは原則16m以下とします。耐風圧性能はP215でご確認ください。
- 垂木は455mm以下の間隔で施工します。
- 野地板は耐水合板(普通合板1類、構造用合板特類または1類)12mm厚以上とし、千鳥張りします。
なお、ALC板には施工できません。
- 積雪のある地域で、すがもれが懸念される場合は、十分なすがもれ対策を実施のうえ、センタールーフを施工します。なお、屋根勾配は3. 5寸以上、流れ長さは屋根勾配に応じて表の通りとなります。

<すがもれ対策の勾配と流れ長さ・下葦材の条件>

勾配	3. 5寸以上4. 0寸未満	4. 0寸以上5. 0寸未満	5. 0寸以上
流れ長さ	10m以下	13m以下	
捨て板(BYS2F00A)	軒先から8段目まで使用		不要
下葦材の強化方法	片面粘着層付きアスファルトルーフィング上下重ね100mm以上、または アスファルトルーフィング上下重ね550mm以上、 左右重ねは双方とも200mm以上		

- 結露防止のため、(独)住宅金融支援機構住宅工事仕様書に準じた小屋裏換気を必ず行ってください。

9-4 本体施工時の注意事項

- センタールーフは長尺、軽量のため風にあおられやすいので風のある日は特に注意して施工してください。
- センタールーフの上で切断作業を行わないでください。また、センタールーフ本体や付属部材の加工時、切断面に生じたバリおよび切り粉などは取り除いてください。もらい錆の原因となります。
- センタールーフ表面および裏面の塗装に傷がつかないように注意してください。傷がつくと発錆の原因となります。万一、傷をつけてしまった場合は、必ず専用補修塗料で補修してください。
- シーリング、補修塗料などは使用方法をご確認の上、正しく使用してください。
- 専用付属部材以外の部材を使用した場合、本体と部材で質感が異なる可能性があります。設定のある付属部材は、必ず専用付属部材を使用してください。

9-5 下地の確認

1) 屋根の清掃・点検

- 施工前に屋根面が設計図通りになっているか野地板、けらば、軒先、棟、隅棟などの下地の寸法を確認してください。また、納品された製品が注文したものと一致しているか確認してください。
- 施工前に屋根面の点検を行い、枯れ葉やゴミが残っていないか確認してください。また、同時に仮設足場の不備がないか、障害物を撤去した後の破損がないか十分に確認してください。

2) 下地組みの確認

- 屋根面(野地板、軒先、けらば、棟、隅棟など)が設計図通りになっていることを確認してください。